215971
1
昭和25年10月18日

魯土交戦第八号

プレウナ戦

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 405-1

魯土交戰ノ近況

第八號

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 405-1

魯土交戦ノ近況　八月十二日発

七月二十日魯将「バロン、クリデネル」ノ兵即チ第九プレウナ地名第七号ヲ攻テ利アラサリシ後ヒ再ヒ攻撃セシカ重テ敗績セシニヨリ同方面上ニハ甚シキ関係ヲ為スニ至ラサルモ差詰メ魯兵長駆深入ノ畏アリシ為メ戦争ノ趨勢ヲ変セントスルニ至レリ而シテ魯ハ目下頻リニ多兵ヲ此方面ニ集ムルヨリシテ来ル日又々全所ニ於テ第三次ノ一大血戦アルヘキ形アリ蓋シ今日マテ此方面ヨリ戦報ナキハ双方共ニ其支度中ト見ヘタリ三十日ノ戦ハ未タ詳報ナレトモ双方ノ公報ト一ノ私報ヲ折衷シテ更ニ自家ノ見解ヲ下スト大約次ノ如シ

土将「ナスマシパシヤ」ハ二十日ノ戦ニ勝ケル後敢テ敵兵

ヲ追躡セズ「プレウナ」ノ近傍ニ就キ要害ノ地ヲ撰ビ砲塁
銃壁ヲ敷ケ所ニ築キ「ウィト」河ヲ負ヒ「プレウナ」駅ヲ中ニ包
ミテ馬蹄状ニ陣ヲ布キ以テ敵ノ再来スルヲ待テリ其兵
約六萬人許或ハ云フ六万五千或ハ云フ六万五千然
レトモ六万ヲ以テ実ヲ近カルベシトス
蓋シ過半ハ新タニ「ヲフルヤ」並ニ「ニン」寨ヨリ着セシ者ニ
係ルトス又借又魯兵「クリデネル」ハ二十日ノ敗後皇太子
ノ部下ニ属スル第十一「コルプス」中ヨリ援兵ヲ得已レガ
部下ノ兵(即チ第九「コルプス」ト合メ三万五千ヨリ四万人
ニ至リ七月三十日午前四時ヨリ「プレウナ」ニ向テ進撃ス
英スルニ土将「ヲスマンパシヤ」ヨリノ公報ニハ魯兵ヲ十
「ダヌビジヨン」ト看做セリ魯ノ一「ダヌビジヨン」ハ亭万二千人
ナルヲ以テナリ「ダヌビジヨン」ニテハ十二万人タリ是レ魯兵
ノ現数ヨリ約三倍多ク見積ルダルニ甘ス此数ハ殊ルニ足
ラス「コライ」親王ヨリノ公報ニハ第九第四及第十一「コ
ルプス」中ヨリ三万三千ノ兵ヲ抜キ「バロンクリデネル」之
ヲ督シ進撃スト又リ就動繪入新聞ニハ第九「コルプス」ニ
第十一「コルプス」中ヨリ一「ダヌビジヨン」半ノ兵ヲ加ヘタリ

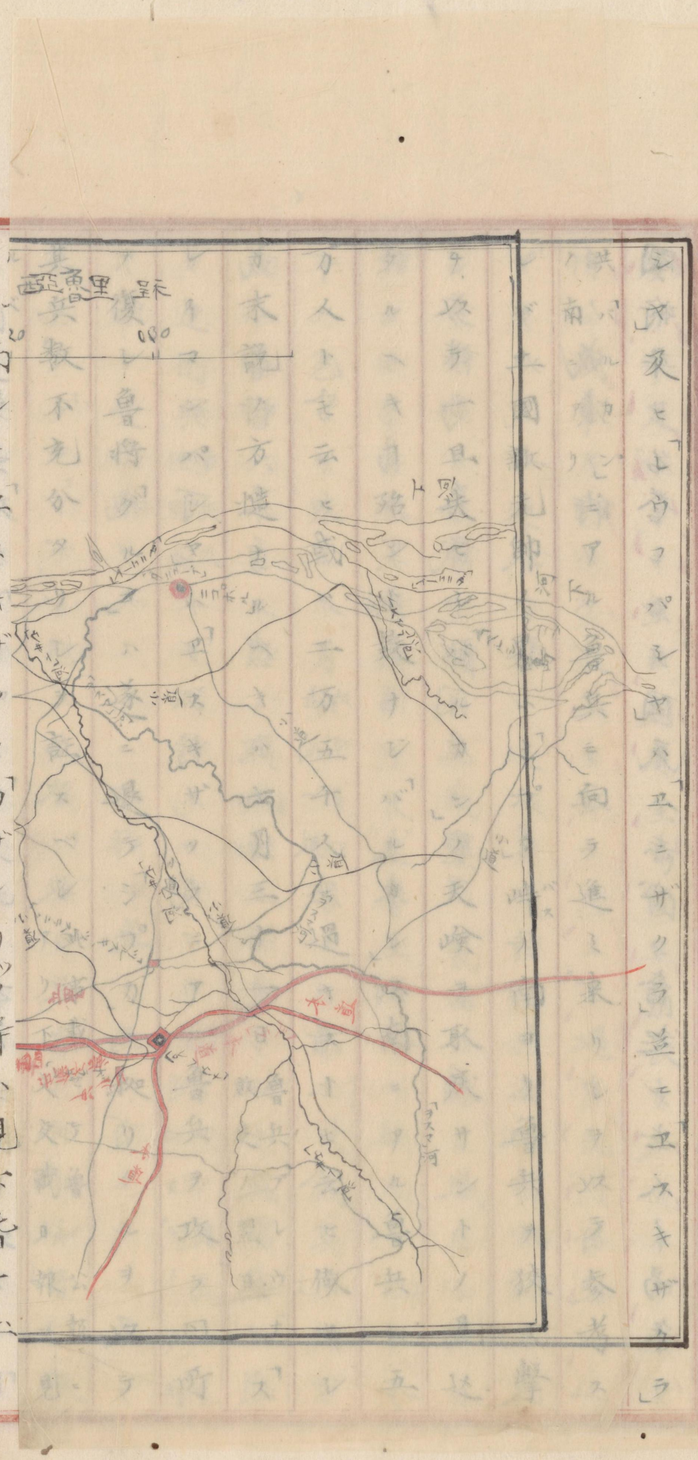
トアリ此数五万二千人此中ヨリ二十日ノ死傷二千人
除クトモ五万人ヲ剰スベシ是ノ如ク諸報一ナラサルヲ
以テ予ハ魯ノ公報ニ基キ以進撃軍ノ兵数ヲ三万九
千人乃至四万人ト看做セリ又抜スル兵ヲ記スルノ数約シカラス或ハ云フ
「ト」砲百六十門タリト或ハ云フ騎兵三「ブリガデ」砲四十
門ナリト但シ魯ノ公報ニ騎砲二兵ノ数ヲ記セス又全兵ヲ
ハ地方ノ不便ニ由ヒ三十六門ノ外用ユルヲ得ザリシト
去レハ砲ノ全数ハ四十門ヨリ多カリシト言フヲ待タ
ス恐クハ八十門ヲ実ニ近カルヘシト又騎兵ニ至テハ険地ノ戦ヒタル
ヲ以テ知ルヘシ歩砲二兵ノ戦ヒ亦スルモ可ナリ其戦略「ク
リデネル」ハ故ノ表面ト北側面ニ向ヒ「ゲネラール、シャコフ
スキ」第十一「コルプス」ニ属シ南側面ニ向テ攻寄タリ土兵
ハ固ヨリ要所ニ拠リ胸壁中ヨリ大小砲ヲ乱発シ以テ敵
ノ陰ヲ冒シテ進来スルモノヲ待ツ魯兵ハ兎傷ヲ顧ミス
前進シテ往々土ノ防禦線内ニ入リ或ハ喚呼ヲ撃チテ敵
塁ニ上ヲ抜キタル者アリ又十時ハ「プレウナ」府内ヘ攻入
タル隊モアリシガ府外ノ高所ヨリ大小砲ヲ撃立テラレ

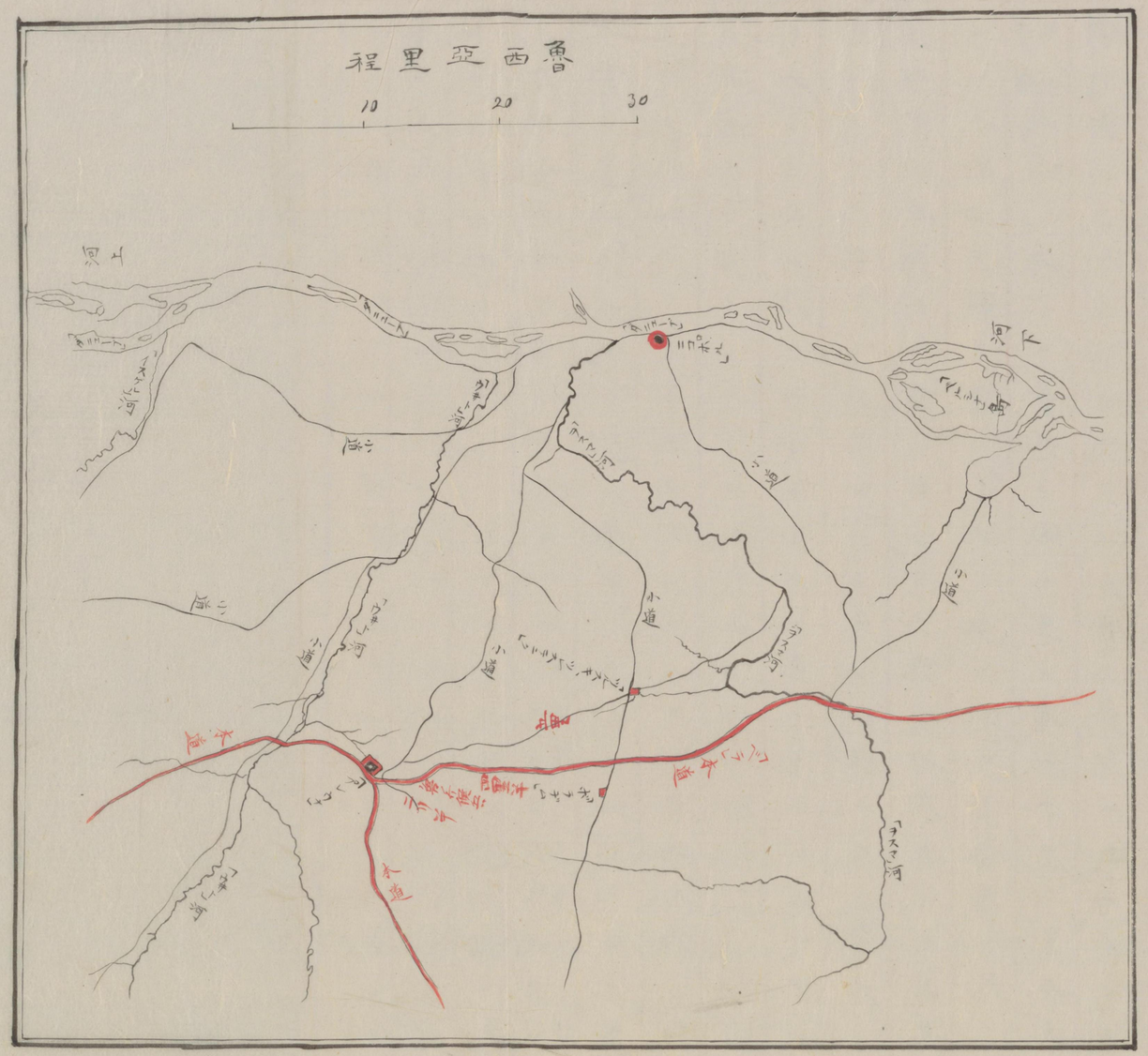
国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 405-1

加フルニ援兵ノ続ク者少ナキヲ以テ遂ニ又遂ヒ戻サレ殺傷無数土兵其機ニ乗シテ大ニ之ヲ尾撃シ夜ニ入テ遂ニ悉ク魯兵ヲ防線外数里ニ逐散ラセリ魯兵即チ退テ「レウナ」ヲ距ル東北谷二里ヨリ五六里ノ間（日本ニテ拠リ陣ヲ布キ以テ敗兵ヲ収メリ此日魯兵ノ死傷生擒等約七千人餘ニ至リ而シテ土兵ハ要所ニ拠リレナ以テ其死傷之ヨリモ少ナレト云フ「オスマンパシヤ」ヨリ土帝ヘ奏スル公報ニハ此日ノ戦ヒ敵ヲ斃ス八千人而シテ傷者之ニ三倍ストアリ是レ固ヨリ信ヲ置クニ足ラス「ニコライ」親王ヨリノ公報ニハ此日ノ戦ヒ未タ死傷ノ詳ヲ得スト雖モ五千人以上ニ及ヘリトアリ去レハ此日ノ戦ヒ死傷七千余人更ニ二十日ノ戦（十九二十日ノ連戦ヲ云フ）死傷二千有余人ナ并セテ大約壱万人ト看做ストキハ実ヲ距ル遠カラサル可シ、三十日ノ戦魯兵ノ深手ヲ負テ戦場ニ仆レタル者ハ土ノ不規兵所謂「バジバゾック」無頼ノ義ニテ頭目ノ命令ヲ不規兵ニ此名ヲ命セリ此兵皆野蛮ニシテ規律ナク敵ニ向テハ敢テ戦ハス殺サレリ其残忍無道ナルヿ言語ニ絶セリト云フ（土耳古語「バジバゾック」ハ無頼ノ義ニテ頭目ノ命令ヲ不規兵ニ此名ヲ命セリ此兵皆野蛮ニシテ規律ナク敵ニ向テハ敢テ戦ハス殺サレリ其残忍無道ナルヿ言語ニ絶セリト云フ

モ聞カス恰モ雙方共ニ兵ヲ休メ備ヲ新ニシテ次ノ戦期ヲ待ツ者ノ如シ魯兵カ未ダ第三次ノ進撃ヲ試ミサルハ援兵ノ整ハサルニ坐スベシト雖モ土兵カ此時ヲ以テ襲来セザルハ其意備ニ防戦ヲ主トスルニ外ナラス

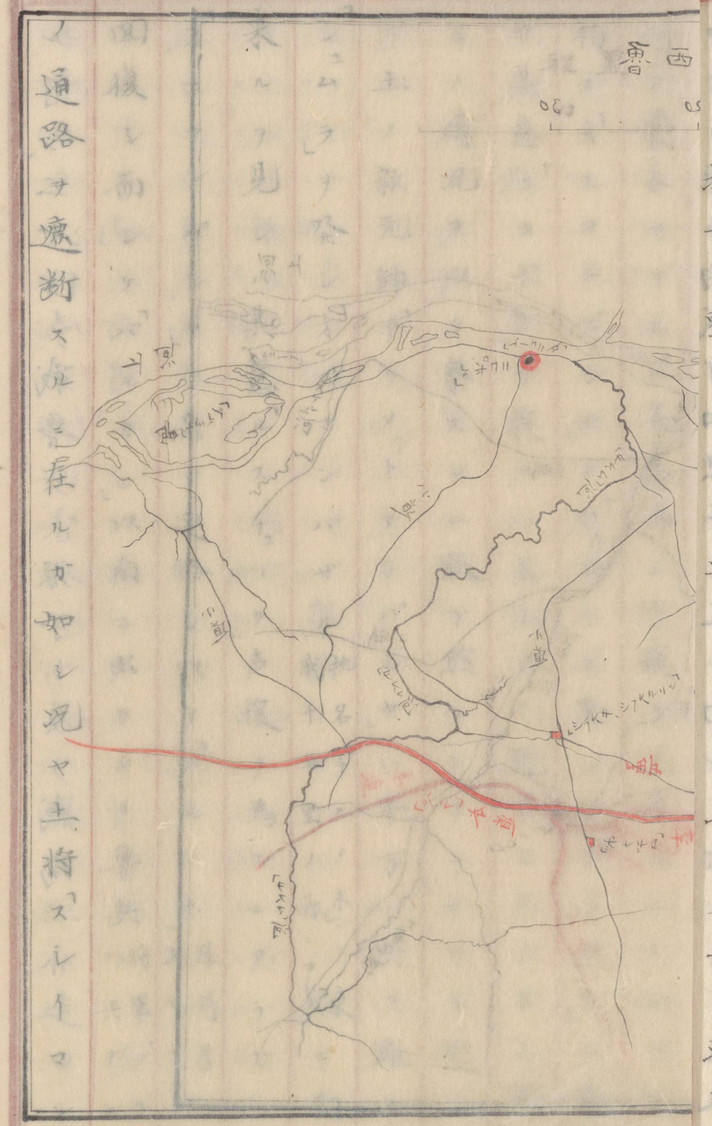
初メオスマン、パシヤノ「ウキゲン」ヲ発シレテフレウナ」ニ来ルヤ其意「ニコポリ」ヲ援フニ在リトノ説多カリシカ土兵逆日ノ情況ヲ以テ察スレハ敢テ然ルニアラサルカ如シ現ニ土ノ新元帥「アクメット、アリパシヤ」ハ十万ノ兵ヲ擁シテ「シュムラ」ヲ発シオスマンバザル（地名）ヲ経テ我十五里ノ所（ホ）ニ来ルヲ見レハ其意「ルスチュック」ニ向テ「オスマンパシヤ」ノ兵ト連絡ヲ取ラントスルニアラズシテ前号ニヲ回復シ而シテ「バルカン」以南ニ出テタル魯兵（将軍ゲルヲ云フ）ノ通路ヲ遮断スルニ在ルカ如シ況ヤ土将「スレイマンパ


西通里鉄
ルスチュック
シュムラ
ビラ
ガブロボ
ヒンコボ
ヤンボリ
ソフヤ
ヒリポリ
ヒリポリ
ヒリポリ



モ聞カス恰モ隻方共ニ共ヲ休シ備ヲ新ニシテスヲ不日ノ戦期ヲ待ツ者ノ如シ魯兵カ未タ第三次ノ進撃ヲ試ミサルハ援兵ノ整ハサルニ坐スルヲ以テ襲来セザルハ其意偏ニ防戦ヲ主トスルニ於タリ初メオスマンパシヤノ「ウキゲンヨ」ヲ発シテヲ「ウナ」ニ来ルヤ其意「ニコポリ」ヲ援フニ在リトノ説多カリシカ土兵近日ノ情況ヲ以テ察スレハ敢テ然ルニアラサルカ如シ現ニ土ノ新元帥「アクメット、アリパシヤ」ハ十万ノ兵ヲ擁シテ「シュムラ」ヲ発シ「オスマンバザル」(地名)ノ「ホ」ノ東ニ向テ来ルヲ見レハ其意「ルスチュック」ヲ援フニアラズシテ「オスマンパシヤ」ノ兵ト連絡ヲ通シテ「ナルノホ」ヲ屠リ前号ニヲ回復シ而シテ「バルカン」以南ニ出タル魯兵ノ通路ヲ遮断スルニ在ルカ如シ況ヤ土将「スレイマンパ

モ聞カス恰モ隻方共ニ兵ヲ休シ備ヲ新ニシテ次ノ戦期ヲ待ツ者ノ如シ魯兵カ未タ第三次ノ進撃ヲ試ミサルハ援兵ノ整ハサルニ坐スベシト雖モ土兵カ此時ヲ



通路ヲ遮断スルニ在ルカ如シ況ヤ土将「ズレイマ

シヤ」及ヒ「ヒウツパシヤ」ハ「エ」スキザクラ」並ニ「エ」スキザクラ」ノ南ニアリ「バルカン」ニアル魯兵ニ向テ進ミ来リレハ以テ参考スレハ土國新元帥ノ畧ハ「ジプカ」峠ノ南ヨリ魯兵ヲ狭ミ撃タムヘキヲ路シ且先ヒレ「バルカン」以南ニアル魯兵ハ五万人トモ云ヒ或ハ二万五千人ニ過キズトモ云ヒ微セカ末説ノ方穏ナルヘキハ七月三十一日魯兵「ブレウナ」ヲ敗走ノ翌日レイコンパシヤ」ハ「エ」スキザクラ」ニアル魯兵ヲ攻テ囘所ナ復レ魯将「グルコ」ハ遂ニ退テ「シプカ」ニ拠リタルヲ以テ其兵数不充分タリシナ証スヘシ此事載セテ魯ノ公報ニルベシ而シテ「エ」スキザクラ」カ「ガンリック」等ハ現下皆ナ土ノ手ニ復セリ先便第七号ニ魯國ノ新聞ニ基キ魯兵大ニ「ス」レイマンパシヤ」ノ兵ヲ「エ」スキザクラ」ニ敗リタルヲ報シ又電報ヲ以テ報セシ如ク「ス」レイマンパシヤ」ハ全ク虚説タリシ現下「ヤンボリ」「アトリヤノツポル」鉄道ノ間ニハモハ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 405-1

ヤ魯兵一人モナクレテ土兵ハ此ノ如ク「バルカン」ス南ニ
通路再タビ開キタリ
於テモツレシノ志ヲ得スンブレウナ」ニ於テハ両次勝ヲ制シ
タルニ第一アクメットアリパシヤ」ノ兵急ニ両向スルヲ聞
カスオスマンパシヤモ亦敵ノ敗ニ乗セス依然故地ヲ守
リ些ロニ兵機ヲ失スルハ土将ノ遂ニ為スヲ有スルニ足ラ
ラザル知ル可シトテ誹謗スル者アリ（八月四日「ダリー ムス」社
説ノ如キ則是ナリ）
或ハ魯将ノ暴勇ヲ恃ミ敵ヲ侮テ軽進シ次テ徒ニ兵ヲ損
スルヲ恐ムル者アリ（此間一般此説ヲ主トシ然レ共帝上ニ於テ既往ヲ
許スルハ易ク実地ニ臨ンテ未来ヲ測ルハ難キノミナラ
ス参謀局ノ幕議ハ新聞屋ノ臆度ヨリ人情ニ近キハ論ヲ
キヲ以テ妄人敢テ軽シノ此等ノ許論ニ左祖セスシテ後
日ノ成績ヲ待ツベシ之ヲ要スルニ「ブレウナ」ノ再捷ハ土
國将卒ノ名誉ニシテ国民ノ赤心ヲ奮起シ妄人ノ喝采ヲ
買フニ足レリト雖モ到底全局面ニ消長スルナカルヘシ
時ニ戦争ノ時日ヲ永フスルヲ得ルハ「ブレウナ」ノ捷報土京ニ達スルヤ内府積日ノ鬱気頓ニ消
シ人々始メテ眉ヲ開キ主戦黨ノ氣焔ハ殊ニ熾ナルニ至
レルモ尚自然ノ情態ナリ又「メンドゥール」ニ於テハ人々恨々不
平ノ色アリ殊ニ八月四日ノ公告ニテ第一鏖國兵十八万
五千四百六十七人悲ク戦地出立ノ命下レリ又當府ニア
ル近衛兵（歩兵及騎兵一「コルプス」ヲ残テズ）戦場ヘ出張スヘキ
ノ命ヲ受ケタリ
魯兵ノ「ダニューブ」ヲ越テ現ニ「バルカン」南北ニアル者ハ数
日前迄ニ其数七「コルプス」ニ及ヘリ魯ノ兵制ニ拠ハ一「コ
ルプス」ハ歩騎砲三兵ヲ并セテ三万五千人タルヲ以テ七
「コルプス」ニテハ二十四万五千人タリ（魯ノ兵制一大隊ヲ
千人トシ三大隊ヲ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 405-1

一騎隊トレ二騎隊ヲ一ブリガード」ト
一ゲビジョン」トシ二ゲビジョン」ヲ
一「コルプス」ニハ歩兵二十四大隊（二万四千人）
歩兵八「バッテレー」ヲ附スバッテリー」ハ
砲数四十八門タリ又一「コルプス」毎ニ
アリ一ゲウィジョン」毎トニ砲十二門ヲ
ルプス」毎ニ哈薩克騎兵（未規兵）ニ「レゲ
ニ一「コルプス」ノ砲数ハ並セテ一百
セ表向ノ数ハ一「コルプス」ニ付戦卒（ヲ
リ之レニ附属人丈（不戦者）ヲ合レハ
云フ然レトモ其現数ニ至テハ右ノ数
ハ外国新聞記者ハ大抵皆ナ魯ノ一
三万乃至三万二千ト算スル者多シ蓋シ之ヲ
万三千ト看做ストモ実数ヨリ多キノ過ケナレ磐ラク之
ヲ本教トシ此中ヨリ是迄欧洲方面諸所ニテ損失セル死
傷大約壱万三千人及ヒ病卒五千人
トキハ二十二万七千ノ兵アリ此中ニ就キ二「コルプス」ハ
「ドブルゲヤ」方面ニアリテ極左翼ヲ為シ二「コルプス」ハ
スチュウク」ニ当リ又「バルカン」ヲ越ヘタル者ハ（即チ「シプカ」
峠ヲ守ルゲネラトルグルコ」ノ兵）二万五千人タルヲ以テ

現下「チルノホヨリニコポリシ」ストオニアル者ハ六万五
千ヨリ七万ニ過キス故ヲ以テ「プレウナ」ノ敗戦以来魯帝
ノ請ニヨリ「ローマニヤ」兵二万五千ハ魯兵ニ代ツテ「コ
ポリヲ守リ更ニ壱万ハ「プレウナ」方面ノ援兵トナルコト
決シ又魯ノ本國ヨリ戦地ニ赴ク援兵陸続トシテ日々「ロ
ーマニヤ」ノ鉄道ハ魯兵ノ為メニ塞ガリテ旅人ノ通行ス
ルヲ得サルニ至レリ

「タイムス」探偵者「ブカレスト」ヨリ「プレウナ」近辺ノ魯営迄
赴キシ者其目撃セシ所ヲ報セシ長文ノ電信載セテ昨日
接手ノ「タイムス」ニ在リ其文ニ曰ク

無頓着ニ兵ヲ驅テ死地ニ陥イレ
戦ヲ謂フナリ魯将是迄欧洲方面ノ戦略ハ大ニ称賛
スヘキモノ多カリシ丈ノ容易ニ「タニュ！」ヲ越ヘテ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 405-1

シストホ」ニ拠リシテ又「バルカン」ノ峠ヲ瞻太ク且ツ
美事ニ取リタルヲ又「ニコポリ」ヲ陥レタル等ハ正
シク魯将ノ鋭明ニシテ驍遇ナル技倆ト土将ノ意気
地ナキヲ見ルニ足レリ然レ共魯将既ニ右ノ三要所
ヲ扼タル上ハ「ルスチュツク」ヲ扼キタル後ナラテハ
「ウヂゲン」ノ方面ヲ進撃スヘキノ理ナシ若シ又ウス
進撃セント欲セハ（良策ニハアラサレ共）其兵数ノ極
メテ多キトキニ従事スヘキモノニテ強大ノ敵兵ガ
堅固ノ砲寨ニ拠ル者ヲ無法ニ攻撃スヘキニアラス」
借予「ブカレスト」発レテ「ゲムニッア」ニ到ル迄ハ土地
ミナ平穏ニシテ眺望ニ倦ミ別ニ記スヘキモノナシ
只抵節ロ「マニヤ」國土木寮ノ不注意ヲ見ルアルノ
ミ譬ヘハ「ブカレスト」ヨリ「チュルガユヲ」ニ至ル本道ニ三
個ノ橋アリ何レモ腐朽シテ通行スヘカラス古橋ノ
河下ニ新橋様ノモノヲ架スレト共捷路ハ古橋ヲ渡
ルニアリ然ルニ古橋ノ敷板ヲ取外シアリナカラ別
ニ人馬避ケノ柵ナキヲ以テ暗夜本道ヲ通行スルモ
ノハ為メ甚タ危シ「シストオ」ニ着シテ府内ヲ見ル
基督民ノ住家ハ皆ナ十字ノ記号ヲ画キアリテ一軒
モ損害ヲ被リシモノナク否ラサルモノハ回教民ノ家ヲ云フ
大抵皆宮ニ罹レリ、此地「ボルガ」ヤナル云フハ山多クシテ且ツ
此処彼所樹木薬ヲ結ヒ一段ノ好風景ヲ作セルヲ「ロ
ーマニヤ」領内「ダニューブ」向岸「ローマニヤ」領ナル云フノ樹木ナキ
面白カラヌ平地トハ大ニ観ヲ異ニセリ、予行ニシ
トホヨリ「プレウナ」近辺ニアル魯営マデノ諸村ヲ見
ルニ土耳格民ハ皆家ヲ棄テ立退キ其跡ヘ「ボルガ」

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 405-1

リヤ」民立チ入リテ竊盗ヲ為セリ梁等ノ口上ニハ曽テ土耳其人ニ奪ハレシ品ヲ取返レタルナリト称スレトモ予ハ「ボルガリヤ」民ノ村落ニ於テ奪フヘキ程ノ品物ヲ見當リシ一絶テ無キヲ以テ全ク意趣返シノ業ト看做セリ、此地到所絶テ柴薪ナキヲ以テ或ル魯兵ノ陣所ニテハ兵卒等近辺ノ畑ヨリ麦ヲ抜キ来タリ之ヲ束テ薪ニ当テ次テ物ヲ煮又ハ其麦ヲ以テ馬ニ食ハシムルヲ見ル又井戸ハ一個モナク只偶一路傍ニ自然涌出ル泉アルノミ此泉ハ石ヲ以テ囲ミ盖フニ一片ノ石板ヲ以テシ而シテ其面ニハ信心深タル土耳格ノ文ヲ書シタリ「午后三時」シストホヲ発セシ後路傍ニアル彼ノ涌泉ノ邊リニ暫ク憩ヒシニ無数ノ怪我人車雲ノ如ク塵ヲ立テ、遠方ヨリ小山ヲ越ヘ来ルヲ見出セリ此先車漸ク近ツキ来テ涌泉ノ許ニ留リシトキ其者供ヨリ昨日「プレウナ」ノ周囲ニ在ル土耳其ノ砲塁ヲ剿戦アリシ由ヲ聞ケリ既ニシテ後車次第ニ集リ来リテ此冷泉ノ傍ヲ囲メリ車中ニハ皆手負ノ兵乱臥レテ渇ヲ訴セントシ或ル傷卒ハ水ヲ飲マントスルニ咽ド或ハ胸ノ疵口塞ク閉キ鮮血流レ出テ乾舌ヲ沾スヲ得ス此辺スベテ地最モ乾キ動モスレハ塵起リテ殊ニ傷卒ノ舌ヲ乾カシム予此惨然タル状ヲ長視スルニ堪ヘス馬ニ策テ前進スレハ幾クモナクシテ第二ノ醫車怪我人ヲ積来ル者ニ行會フ「二時間ノ長ニ及ヘリ之ヲ過レハ猶是ヨリモ長ク續ケル農車ノ軽傷兵ヲ乗セ来ル者ニ逢フ尚其後ヲ望メハ際限ナキ弾薬車荷物車等景

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 405-1

々絶ヘズシテ未尾ニハ大小車人馬相雑シテ區別ス
ル能ハサルモノ全ク本道ヲ塞クニ至レリ而シテ何
レモ「ストホ」ヲ指テ行クモノナリ予於是不得止我
馬ヲ路傍ノ丘陵ニ繋キ以テ道路ノ再タヒ開クヲ待
ツコト一時余ニ及ヘリ予迺寄リテ此郡ヲ見レハ数百
ノ勇卒等傷ヲ負テ斃(ヘ)ノナキ小車中ニ輾轉反側シ
血ニ塗レタル肢体ハ焼クカ如キ天日ニ射ラレ作雲
塵(ホコリ)ハ彼レカ乾ケル喉ニ充チ又ハ昔痛ヲ恐ベル面顔
ニ積リテ遂ニ人トハ認メカタキニ至テ止ム歎待合
ハスル間ニ屡ク援兵ハ未タ来タラズヤト向カケテ
レリ此有様ヲ見テ以テ多少ノ健児ヲシテ無理ニ多
勢ノ敵堅固ノ砲塞ニ拠ル者ヲ肉薄戦闘セシメシ罪
障ヲ証スヘシ車中ニ重傷ヲ負ヘル一士官アリ先鋒
隊ヲ指揮シテ深ク土ノ守塁中ニ入リタル者ナリモ
シ此隊ノ適當ノ保護ヲ為スモノアリセハ其陣ヲ抜
クヲ得ヘカリシニ之ニ續クノ兵無カリシ故或ハ将
官ノ不行届キ故ニテ兵数引足ラサリシ土兵ハ之ヲ
見テ争テ此隊ニ撃テカヽリ遂ニ之ヲ撃却ケタル由
「我カ隊ノ生還セシ者ハ半ニ過キス」ト此手負士官自
ラ語レリ予此所ニテ始テ昨日ノ戦ハ朝ヨリ夜ニ連
シタルヲ聞ケリ鲁兵ハ「ケネラール、クリデネル」ノ指
揮ニテ土ノ両翼ヘ攻寄セ右翼ノ方ハ「クリデネル」自
ラ之ヲ率ヒ左翼ハ「プリンスシャコフスキー」之ヲ指揮
セリ鲁ノ将卒等皆ナ予ニ語テ云ク敵兵甚ク固ク我
等之ヲ如何トモスルヲ得スト、真ニ然ルベシト彼等
ガ受ケシ恐怖スヘキ傷ヲ見テ以テ彼等ハ「プレウナ」

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 405-1

ヲ援戦シテ援クベシトノ愚ナル号令ヲ奉シテ憤激
突戦セル状ヲ想フベシ斯ク無数ノ弾薬車並ニ荷物
車ニ達セレニ付魯兵ノ敗レテ引揚クル者ナルヘシ
ト思ヒシニ大砲ハ一門モ未タラス又弾薬車ヲ能ク見
レハ皆空箱タルヲ以テ是ハ再ヒ積ミ来ル為メニ帰
ルモノニテ引揚クルニハアラサルヲ知レリ荷物車
ニ載セタル天幕並ニ野営品等ハ死傷セレ兵士ニ属
セルモノニテ戦地ニ不用タルニヨリ持チ帰レルナ
リ、予カ此時待チ合セノ中ニ在我人車中ニアル一傷卒死去シ之ヲ路傍ニ埋メタリ我ハクモナク
シテ前路ニ進ムニ又ミ哀ムヘキ景ニ會ヘリ夫ハ路
傍ニ大穴ヲ堀リ以テ魯兵ノ死セル者ヲ埋メ而シテ
「ボルガリヤ」人之カ葬式ヲ行フ者ナリ之ヲ過クレハ

又々一士官無数ノ車輌ヲ指揮シテ来ルニ逢ヘリ其
士官ノ話ニ「プレウナ」ニテ魯兵ノ損亡ハ恐クハ壱万
人ニ近カルヘシト此数ハ去ル十九二十二十一日ノ
戦ニ損亡セシ二千人ヲモ合算シテ云フ者ナリ予カ
現ニ目撃セル傷兵ノ数ト其後ヨリ来ル「ランドセル」
死傷セシ兵ニノ若干千アルヲ見レハ右ノ算ハ多分

スマ」ノ溪間ハ廣クシテ向山ヨリ撃出ス敵ノ大砲普
シキ效ナ為スヲ得サラシムルニ足ル故ニ魯兵モシ
此山脈ニ拠リ壘ヲ築キ以テ此度ブレウナ」ヲ攻メタ
ル兵ニテ守リシナラハバルカン」トダニューブ」ノ通路
ヲ警ムルニ充分タルベキニ空シクブレウナ」ヲ進撃
シテ大敗ヲ取リタルコソ理リナケレ、クリデネル」モシ
此山ニ拠テ守ルニオスマンパシヤ」攻来リナバ渠レ
其大敗ヲ取ンヘキコトクリデネル」ガブレウナ」ノ敗レ
ヨリモ甚シカルヘシ斯レハ魯将モレ此畧出タラン
ニハ戦ノ面目大ニ観ヲ攻メラレ、ナラン何トナレハ魯
兵ハ要害ニ拠テ戦フコトハ上手格ニ譲ラサルニ土耳
其ハ野戦ニ於テハ魯ニ及バサレハナリ、予カ臆カニ
聞ク所ヲ以テスレハブレウナ」進撃ノ令ハ全ク」ニコ
ライ」親王ヨリ出タリト果シテ然ラスブレウナ」敗績
ノ責ハ親王一身ノ任スヘキ所ニシテ将卒ハ勇戦シ
テ残ス所ナク其職掌ヲ遂ゲタレハナリ予」シストホ」
ヲ発シテ翌日午后二時ブレウナ」ノ左翼ヲ指揮セ
シ中将シヤコフスキ」ノ陣ニ着セリ同氏ノ本営ハブ
レゲン」村ノ上ナル高所ニアリテクリデネル」ノ本営
ハトレスチニク」ニ在リ両所共ブレウナ」ヨリ二十
キロメートル」ノ距離ニアリ而シテ先鋒ハブレウナ」
ヨリセキロメートル」ノ地ニアリ現下魯兵ノ拠レル
所好地位ニシテ此処ニテ防禦ヲ主トスレハオスマ
シパシヤ」ノ兵ヲ押ヘテ前進スルヲ得サラレムカク
而シテオスマ」河ノ向山ヲ以テ第二ノ防禦線トナス
トキハ更ニ可ナリ、予シヤスコフスキ」ノ営ヲ見ルニ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 405-1

諸事整理シ歩兵ハ調練ニ従事セリ兵士等何レモ慷慨シ援兵ノ来ルヲ待テ再ヒ進撃センノ渇望セリ然レトモ再ヒ進撃セントスルニ方リ其兵十万ヨリ少ナカルベカラス何トナレハ「オスマンパシヤ」ノ兵現ニ「プレウナ」ノ周囲ニアル者ハ六万乃至七万タルヘハナリ「シャコフスキ」氏予ニ語テ曰ク進撃最中土兵ハ胸壁（バベマト）ニ拠リ元込小銃ヲ雨ノ如ク発射シ如何ナル兵タリトモ之ニ抗抵スルヲ得サルヘシ我方ニテハ只ニ敵兵ノ「フュス」（土耳其人冠シル帽子ノ名）折々見シノミト「シャコフスキ」慶殺セラレリトスノ士兵ガ勝ニ乗シテ露兵ヲ追蹤セザルノ愚ハ露兵ガ退撃セシ後三十六時間ニ再ヒ卒日ノ如ク整粛セリ「オスマンパシヤ」ハ出テ露兵ヲ長駆セバ「シストホノ船橋ヲモ害スルヲモ得タルナラン然ルニ此挙ナキヲ次テ露兵ノ通路ハ卒日ニ異ナラス露軍ハ後ニ無益ノ進撃ナナシテ多ク兵ヲ損セシノミニラ他ニ差碍リナシ「プレウナ」ノ役タル只如此ノミ援兵ノ一部ハ既ニ「クリデネル」ノ営ニ着セリ又我カ「ブカレスト」ヘノ帰路「シャコフスキ」ノ営ニ迫キ所ニ於テ第一「ブリガートノ」援兵来レル者ニ会ヘリ「ダニューブ」「バルカン」ノ通路ハ「プレウナ」ノ方面ヨリ危ブメラルヽノ患全クナシ、露ノ第二「ゴルプス」ハ本日「チムニック」ヨリ渡始ル筈ナリ、「ネラールシャコフスキ」氏云ク土兵ハ我

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 405-1

兵ノ傷ヲ負フテ戦場ニ斃レタルモノヲ無状ニ屠殺
セリ我兵卒ノ死傷ヲ集ムル者此有様ヲ見テ奮怒ニ
堪ヘザルヲ以テ予ハ厳命ヲ下シ置キタレドモ衆
等此復讐ヲ為サンコトヲ畏ルトポレゲン」ノ本
営ニテ敵ノ間諜ヲ為スボ」ルガリ」ヤ」人数名ヲ捕縛セ
リ」ニコラ」イ」親王ハ程ナクプ」レウナ」近辺ノ本営ヲ見
回ラルヘシ然レ共親王モシ援兵ニテモ連レ来ラサ
ル以上ハ親王一人ノ来臨ハ」オスマンパシヤ」ノ砲察
ニ對シテ何ノ役ニモ立タザルヘシ這回ノ戦最中魯
兵誤テ円士打ヲ為シテ相殺ヤリ夫ハ一群兵敵ノ前
面ニ向テ打入リレトキ敵其場ヲ棄テ、走リタルヲ
以テ之ニ入リシニ他ノ一群敵ノ側面ヨリ打入レタ
ル者味方ノ把ルルヲ知ラスシテ敵ト認メテ撃ケ斃

此方モ亦敵兵ナルヘシト認メテ之ヲ撃ケ居タリ
シニ良アツテ敵丸双方ニ来ルヲ見テ始メテ円士打
タリシヲ知レリト、ニコボリ」ヲ守リレ魯ノ大佐某ハ
プレウナ」ノ後軍ヲ顧テ赴キシガ重傷ヲ負ヒ帰後程
ナク死去セリ然レ共其瞑目前ニ少将ニ任セラレタ
リ此除ハ格別要用ナラサルヲ以テ略ス

土京ヨリノ報ニ把レハ新元帥」アク」スグラッド」トプ」レウナ」ヲ以テ防禦ノ二翼ト定ムル見込ナリト又現下」ラスグラッド」ノ周囲ニ屯スル」エユーブパシヤ」ノ歩兵四十八隊大砲十五」バッテレ」一正騎兵六十二」エスカドロン」不規騎兵十二」正スカドロン」並ヲ四万人又」スレイマンパシヤ」ハ大約六万五千ノ兵ヲ率ニテ」バルカン」ヲ越ヘ来ルヘシト云フ蓋シ魯将」グル」コガ」シブカ」峠ニ引揚ゲ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 405-1

シ次来ハ「バルカン」次南ニモハヤ魯兵アラザルナシ「ス
レイマンパシヤハ「バルカン」ヲ越テ「ボルガリヤ」方面ノ諸
軍ニ声援ヲ為スニ至當ノ戦畧タレハ右ノ説ハ真ナルベ
シ只其兵数ニ至テハ当否ヲ判シ難シ通例新聞上ノ兵数
ハ実ニ過クルモノ甚タ多シ
「ルスチュック」方面ニアル魯國皇太子ノ兵ヨリ飛ヲ新報ナ
シ蓋シ其兵ノ一部ヲ「プレウナ」ニ分派セレヤ以テ我ヨリ
攻撃ヲ事トセザル者ノ如シ魯ハ「ルスチュック」ヨリ以テ第二
ノ「メッツ」タラレムル見込ナリト云フノ説多シ或ハ然ルモ
知ルヘカラズ「ブカレスト」七月三十日ノ報ニ太子ノ兵「ユ
ープパシヤ」ノ兵ト戦ヲ大ニ勝ヲ生橋八千人大砲三十
門土旗十本ヲ得タリトアリシカ其後ハ何ノ音信ナキヤ
以テ此報ハ全ク虚説タルベク否ラサルモ先鋒ノ小迫合

タリレナルヘキヿ疑ナシ現ニ「ルスチュック」ト「ラスクラット」
ノ通路ハ再タヒ閉ケリ
「ドブルヅア」ニ在ル「チンメルマン」ノ兵ハ「クスランゲ」「チュル
ナウオダ」ヲ取タル後其一部ヲ「クスランゲ」方面ニ向
テ発セシカ其後久シク戦報ナシ只「プリンスハツサン」(坂及国君)
「テーゲノ子」ハ「エゲプト」ノ兵ヲ帥ヒテ「メヒメト」「バザルヂック」
ノ間ナル「ベイムレード」ニ出テ以テ「チンメルマン」ノ側面
ヲ窺フヲ以テ恐クハ前進シ易カラサルヘシ蓋シ「チンメ
ルマン」ノ兵ハ差當リ「ドブルヅア」地方殊ニ「クスランゲ」ヲ守
テ以テ戦期ノ来ルヲ待ツ者ノ如シ「ドブルヅア」ハ有名ノ
湿地ニテ時候極メテ悪クシテ「チンメルマン」ノ兵ハ之カ為
メニ病ニ罹ル者甚タ多シト云フ此地ハ殆ント這回ノ戦
場ヲ為サントヲ以テ現下五人皆意ヲ注ガサルモ亦理ナ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 405-1

キニアラスト雖モ「ニコーブ」ノ河口ヲ為スヲ以テ異日和
ナルノ日ニ至ラバ此地ノ「ナ」ニ付テハ歐洲各政府殊ニ墺
政府ヨリ喙ヲ容ルベキヤ疑ナシ蓋シ其日ニ至リ魯兵モ
此地ヲ輒スク去ラザルニ至ラバ墺政府ヨリ之ヲ必争
スヘキヤ猶夫ノ魯兵ガ土京ヲ去ラザレハ英政府ヨリ抗
議スベキガ如シ
魯帝ノ帰國ハ未ダ何ノ日ニアルヲ期スベカラス而シテ
皇族ハ悉ク戦地ニ出張シテ兵事ニ与カレリ只「コンスタ
王ハ魯帝ニ代テ留守ヤリ」然ルニ魯帝ハ宜戦ノ時布告セン論言ヲ今
ニ蹈マサルノミナラス其皇族ハ一人タリトモ戦ニ臨ム
モノナシ是レ土國ガ「ボリネカル」上ノ関係ヨリモ其皇族等
皆氣畧ナキ癡漢「シ」タルニ坐スルナル可シ

歐洲各國

墺政府兵ヲ國境ニ出スノ件ニ付テハ紛々浮説アリシガ
七月三十一日諸卿ノ一大會議アリテ墺帝親ヲ其席ニ
臨マレタリ其結局墺政府ハ二「コーロル」ノ兵ヲ戦争支度ヲ
シメスヲ不慮ニ備フルヲ決シ而シテ其出兵ノ時機ハ
太政大臣「コーントアンドラシー」ノ見意ニ任スヲナレ
リ戦争支度ハ黄ハ大約二千五百万「フロレンス」ニシテ既
ニ調達セリ墺政府ガ如「是」備ヲ為スハ魯ニ抗スルニアラ
ス亦土ヲ助クルニモアラス全ク自國ノ利益「インテレスト」ヲ保護スル
為ナリ譬ヘハ「セルフ」ヒヤ再ヒ土ニ及レテボス「ニヤ」ニ出テ
又ハ「モンラネグロ」ノ兵「ベルセゴ」ヲ侵スガ如キアラ
ハ「ホンガリヤ」ノ人心沸騰メ知スヘカラサルベキニヨリ
斯ルキハ品ニヨリ兵ヲ放テ國境ヲ越ヘスシテ二州ヲ侵ス
ノ為メナリ「ロー マニヤ」ヤ兵カ魯ト連合シテボルガリヤ

工部省
工部省

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 405-1

入リシカ如キモ陰ニ墺國ノ利益ニ關ルハト雖モ前ニ件
ノ如ク甚シカラサルヲ以テ今ニ至ルマテ公然異議ヲ容
レタルヲ聞カス又魯兵ノ俣セシ「ボルカリヤ」地方ニ於
ンスチエ「カフスキー」氏カ定メシ縣政ノ如キモ門斷タ
ルヲ以テ右ハ一時政ナルベシトテ「アントラ
シー」氏ハ「ゴルチヤコフ」氏ニ書ヲ致セリ「コルチヤコフ」氏
ハ未タ之ニ答ヘストノ說アリ一說ニハ「スラホ
ニツク」ノ新國カ起ルカ又ハ所謂權衡ヲ失スル程ノ勢ヒア
ラハ大ニ墺政府ノ利益ニ關ルモノナリ帝ニ利益ニ關
ルヽノミナラス其國安ヲ妨クルニ至ルヲ以テ預メ之カ
備ヲ爲スナリ
八月八日「イシル」ニ於テ墺帝ト會合セラレタリ此會合ニ
就テハ不相替諸種ノ風說アリト雖モ兩國政府ノ趣意ハ
兩帝ノ相會晤スルヲ待タスシテ明カニ相知ルモノナレ
ハ只交誼ヲ厚クスルノ一手タルニ過キズ
英政府「ガリポリ」ヲ把ル見込ノ一條モ頃日ハ音沙汰ナレ
但シ土政府ハ英大使ニ向テ「ガリポリ」ハ自國ノ兵ヲ以テ
警護スヘク英政府ヨリ緩急相救ノ勿ヲ請フニアラサル以
上ハ兵ヲ該地ニ揚ルヲ許サヽルノ意ヲ述ヘタルハ實說
タルヘシ是レ實ニ至當ノ見識タリ然レトモ此言タルヤ
英政府蠶食ノ政理上ニ於テハ曾テ消長スルトコロナカ
ルヘシ
英政府ハ土政府ヨリ落手セシ魯兵暴行ノ狀ヲ駐魯英大
使「ロフチエスヲ以テ魯政府ニ出セリ土魯兩兵ノ暴行ニ付
々記載シテ絶ヘス然レ𪜈土政府ヨリ魯兵暴行ノ公報ハ
大抵信スヘカラサルモノヲヽシ土兵ノ暴行ニ至テハ其甚
シキヿ并ヲ待タス魯兵ノ暴行モヲヽ
哈薩克ノ所業ニシテ詰リ双方免レ難キヘシ「カ港ニアル

「タイムス」探偵者ノ報ニ曰ク現下破泊ノ甲鉄艦「アケレス」「テメラヤ」「シャノンル」「ビー」「プラミンゴ」ノ六艘増加スベク而シテ「アケレス」艦ハ既ニ「マルタ」ニ着シ来日當港ニ来ルベシ

「セルフェヤ」政府ハ第一番微兵ヲ八日ノ間ニ出張支度スヘク又士官軍醫等ハ四十八時間ニ出張用意アルベシトノ令ヲ下タセリ輜重局ハ俄カニ預備薬及ヒ食糧ヲ集メ赤色十字社モ亦入用品ヲ集ムルニ勢掌セリ来日ニ國境ヘ出兵ノ命下ルベシトノ説多シ「ギリレヤ」「トセルフェヤ」ノ同盟ハ将ニ整ハントスベシト云

「ギリレヤ」國ハ兵ハ大半皆國境ニ出張セリ預備正兵ハ悉ク出張支度整頓シ預備不規兵モ亦呼出サレ就中六千人ハ来日ニ「アテーン」府ニ着スベシト云フ

「モンテネグロ」ノ兵ハ絶ヘス「ニクシン」ヲ「ケ」城ヲ囲ミテ発砲スレ共城兵未タ降ヲ称セズ

亜細亜方面ノ近況

「ペルゼルム」府ヨリノ報ニ拠レバ魯兵ノ中軍ハ「クルクダ」「ラ」「ゴルフェランテ」ノ三ケ所ニ分レテ屯シ歩兵並セテ六十八大隊砲十六門騎馬八千五百足アリ「ゼネラール」デルグカリフ」ハ歩兵十八大隊砲兵七「バッテレイ」騎兵七「レゲメントトヲ以テ國境ニ近キカラツツラック」ニアリト云

土國元帥「ムクタルパシヤ」ヲ始トシテ諸将何レモ防禦ヲ主トシテ動ス既ニ此方面ヨリ二十五大隊ノ兵ヲ「ボルガリヤ」方面ヘ分派ストニ又魯兵ハ新タニ多少援兵ヲ得タル由ナレ共未タ普レキ戦報ナク而シテ全欧州今ハ此方面ノ戦ニ注意スルモノナレカ「ルスチュク」城ノ通路ハ依然梗塞

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 405-1

セス魯兵ハ「アルダハン」城ヲ回復セントスルノ色ナレ

十年八月十二日

交戦日報

七月廿九日

就動二十八日「レイテルアゲント」ヨリノ報ニ「ベシカ」港ニアル英國艦隊ハ出帆セシガ何レヘ赴キシナ知ラス雖納セ八日「ミザットパシヤ」ハ當地ニ着シ土國大使「アレコパシヤ」並ニ「アンドラシー」ト面會セリ「ミザットパシヤ」ハ君士坦丁府ヘ赴カズシテ竜動ヘ赴クヘシトノ説アリ「ガカレスト」ヨリマシパシヤ兵ヲ率ヒテシプカ」ヘ赴キ又他ノ土兵ハ「ラグザ」ヘ進ムノ色アリ「アテイン」ヨリノ報ニ希改府ハ「セルフヒヤ」並ニ「モンテネクロ」二國ト連絡ノ約ヲ結ハントノ揆合ヲ始メリト

君士坦丁府廿八日「メクメットルスヂパシヤ」ハ太政大臣ニ撰バレシガ円人ハ之ヲ辞シテ「ミザットパシヤ」ヲ呼返スベ

此説信シ難シ

此報両ソナラ仍ス可ラス

キ旨ヲ土帝ニ勧メリ土政府ハ「ミザットパシヤ」ヲ迎ヘル為メ「イセゲン」船ヲ「ブリンゲシ」港ヘ送リレトノ説アリ

竜動二十七日「ロイテル」アゲント」ヨリノ報ニ「スレラマン」ヒア「ドリヤノッポル」ヘ退ケリ魯兵ハ「ハスキヨイ」ニ於テ」パシヤ」ハ「カラボネル」ニ於テ魯兵ニ破ラレ大砲十門ヲ失ヒリポルいトア「ドリヤノッポル」トノ通路ヲ断ケ切レリ魯ノ一隊ハ「エスキザクラ」ト「タールブナル」ノ間ニ在ル「ヤンボリ」ニ在リ又一隊ハ「シリストリヤ」ヲ圍メリ

維納二十七日「セケニエ」ヨリノ報ニ「モンテネグロ」勢ハ「クシケ」ノ周囲ニアル砲臺ヲ奪取リ本日ハ方ヨリ「ニクシケ」城ヲ砲撃シ始メリ

君士坦丁府廿八日英國艦隊ハ「ベシカ」ヲ発帆セシガ未タ其行先キヲ知ラサレドモオソラクハ巡邏スル為メナルベシ

此末説仍シ易カラズ

「アドリヤノッポル」廿六日當府ニアル各國領事ハ公所ノ知事ヘ向ヒ人民ノ安全ヲ保護セントノ言出セリ伊國領事ハ公所在留ノ伊太利亜人民ヘ公所ヲ立退ルヘシト差圖セリ魯兵ハ「ヤンボリ」並ニ「ヒリポルス」ニ在ル鉄道橋五ケ所ヲ毀テリ

維納廿八日「タクブラット」新聞ヘ「ツルンマグレリ」ヨリノ報ヲ記シテ云ク「カラフオル」ニ於テ魯ノ皇太子並ニ「スウャトポルクミルスキー」率ヒシ魯兵ハ土兵ト戦ヘリ土兵ハ敗レテ「アドザリスラル」ヘ退ケリ「ベルグラード」ヨリノ報ニ「セルフヒヤ」政府ハ歩兵四十二大隊ヲ國境ヘ集ムルニヨリ此事擧政府ヨリ異議ヲ容ルヽノ基トナルベシ

仝三十日

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 405-1

維納廿九日「ミザアトハシヤ」ハ當地ニアルヲ松スル様子ナリ他人ヲ訪ハス又諸人ノ訪問ヲモ受ケズシテ土帝ヨリ差圖アル迄ハ此地ニ滞留ノ積リナリ「タグブラット」新聞ヘ「アテイン」ヨリノ報ヲ記シテ曰ク「グレート」嶋ニアル「レナム」ノ近辺ニ於テ決戦アリ一揆黨ハ益蔓延スルイキホイアリ

「ラゾサ」廿八日ノ報ニ「ニクレチ」城ハ不日落城スベシ

「キュルクダラ」廿九日ノ報ニ昨夜「ウサダンケ」益ニ「ブラニク」ニ在ル土ノ陣営ノ様子ヲ見テ歸ル途次「ヤクダ」ノ近辺ニ於テ我ガ騎兵隊ト土ノ番兵ト戦ヘリ我兵ノ死傷即死四十人内士官壱人アリ傷士官四人ナリ（卒ノ傷ハ記載ナシ）

公三十一日

「シストホ」三十日「ラスグラット」ニ於テ大戦アルトノ報アレドモ其勝敗ハ未タ審カナラズ「デウサジョン」ハ「シリスト」ヨリ攻撃スルニカヽレリ第五「コルプス」ハ「ニュープ」ヲ越セリ

「プラグ」三十日公報新聞ホ「ヘミヤ」ニ記シテ云ク諸卿ノ會議ニ於テ擧政府ハ二「コルプス」ヲ出兵支度スルニ決レタレ共中立ヲ犯シボスニヤ「ヘルゼゴビナ」等ヲ占拠スルニハ及ハズシテ只萬一ノ用意ニ備フル為ナリ

君士坦丁府三十日交際家ノ説ニ英大使「レイヤルド」ハ危篤ニ赴キシニ英國ヨリ救援ヲ出スベシト土帝ニ約セシヨリ翌旗ヲ掲ケルノ想像ヲ改メリ

「ブカレスト」廿九日「ゼネラールマスハロー」ヤ國ノ第四「ダウサジョン」ヲ率キ「ダニューブ」ヲ越シ「ニコポル」ヲ囲メリ

仝所ニハ既ニ「ローマニヤ」國ノ旗章ヲ飄セリ

「グレート」嶋一揆ノ「信シ難シ

「キュルクダ」ハ小亜細亜ニ在ル現下魯將「ロリスメリコ」ノ本営ナリ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 405-1

竜動三十日「レーテルアゲント」ヨリノ報ニ英政府ハ本日「マルタ」ヘ歩兵四聯隊騎兵二隊大砲一ブリガードヲ送ルベシ

「アウブスゴルグ」二十九日「アルゲメイネサイチュング」ニ雑納ヨリノ報レテ云ク「ミザットパシヤ」ハ君士坦丁府ニ赴カズシテ竜動ヘ赴クベシ

八月一日

君士坦丁府三十日ノ公報ニ「モンテネグロ」ハ去ル廿六日「ニクシク」ヲ攻メレガ遂ニ下サレテ数多ノ兵ヲ損セリ

魯兵ハ過日「シリストドリヤ」ニ於テ敗戦セリ「スレイマンパシヤ」ヨリノ報ニ「ボルガリヤ」人ハ回民ノ村落数ケ所ヲ焼拂ヒ又鉄道ヲ毀テリ「ルスチュク」城ノ司令官ニシレフパシヤハ軍事裁判ニ掛ケラルベシ

魯ノ右翼ハ即ケプレウナ近辺ノ兵ナリ

維納三十日「プレス」新聞ニ「ブカレスト」ヨリノ電報ヲ記シテ云ク魯兵ノ右翼ヘ援兵ノ来ルヲ隠ス為メ魯兵ハ依リニ「ルスチュク」ヲ攻撃セリ「メクメットアリパシヤ」ハ昨日六萬ノ兵ヲ師ヒ「エスキゲュマ」ヲ出陣シ「チルノホ」ノ際ニ於テ大戦アルベシ「ポリチマンパシヤト「チルノホ」ノ際ニ於テ大戦アルベシ「ポリチスコルレスポンデンツ」ヘ「ブカレスト」ヨリノ電報ヲ記シテ云ク「コボル」ニ在ル「ローマニヤ」勢ノ司令官ゼネラー「ルマヌ」ハ魯兵ト合併シ或ル場所ニ於テ共ニ戦フベキ筈ヲ魯ノ本営ヨリ受ケリ

竜動三十一日「レーテルアゲント」ノ報ニ英政府更ニ「マルタ」ヘ兵ヲ送ルノ説ハ虚ニシテ即今用意スルノ兵ハ印度ヘ送ルヘキ為メナリト「ルスコット」氏ハ下院ニ於テ「ロイソン」ニ答テ云ク「ベシカ」ニ在ル英國艦隊ハ全巻ヲ去ルニアラ

ズシテ只全呼ノ湾内ヲ巡遊スル為メナリト上海ヨリ「レイデルアゲント」ノ報ニ魯國水師提督ノ旗章ヲ揚ケレボ「ヤン」船ハ「サンフランシスコ」ニ出帆シ七月一日「ウラヂウオストク」ヘ着セリ尚他ノ軍艦モ不日来着スヘシ全港ニハ多クノ水電ヲ沈メリ英國艦隊長ハ迎日「ウラヂウオストク」ヘ赴クヘシ

仝二日

「チルノホ」三十一日ニコライ親王ヨリノ報ニ昨三十日「ゼネラールバロン、クルデネル」ハ再タビ「プレフナヨ」攻撃シ利アラサリレガ今ニ詳報ナケレバ落手次第報知スベシ

維納一日「タクブラット」新聞ニモ「チユルノウオダ」ヨリノ電報ヲ記シテ云ク「ゼネラールケンメルマン」ハ土兵ト出會戦ヲ敢ヲ逐ヒ却ケリ「ブレス」新聞ニモ仝様記載セリ「ヤシトラ」河ノ右岸ニ於テハ連戦アリ君士坦丁府ヨリノ電報ニ「コーシトダッチ」(墺國大使ハ「アドリヤノッポル」並ニ「プセリポール」ニ在ル領事ニ令シ記録類ヲ土京ヘ送ルヘキ旨ヲ差圖セリ「ミザットパシヤ」ノ言ニハ土政府ハ英國並ニ墺國ノ兵ヲ用ヒテ帝國ノ一部ヲ占拠セシムルハ連合ノ約定ヲナセシ上ニアラサレバ許諾スベカラス若シ右ノ約條ヲナサバル前ニ兵ヲ置クニ於テハ土國抗抵スルモノト看做スベシ併シ墺國ニ於テセルフヒヤ」國ヲ占ムルノ件ハ土政府ニ於テ許諾アルベシト

「ブカレスト」三十一日ニコライ親王ハ「テルノホ」ニ於テ止捨セシ士官等ニ向ヒ何故君士坦丁府ヨリノ命ニ背キ手負並ニ戦死ノ者ヲ棄リ殺スルヤト尋ネラレシ時士官等

此報ヲ信シ易スカラズ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 405-1

答テ曰ク貔貅殺ニスルハ土京ヨリノ差圖ナリト
「ブカレスト」一日ゼネラールマ「メ」ノ率ユルロ「マニヤ」軍
ハ「ニコポル」ヨリ「ブレウナ」ニ出陣ヤリ
君士坦丁府一日「ブレウナ」三十日付ヲスマンパシヤヨリ
ノ報ニ今朝敵兵三分隊余ヲ以テ大砲隊ヲ先手トシテ襲
撃リ夜十時迄戦ヒテ後自己ノ営ヘ退ケリ恐ラクハ明日
モ戦アルベシ
竜動三十一日「ハウヌアゲンス」ヨリノ報ニ土國外務卿「ア
ハリフヒパシヤ」ハ辞職シセルウヱルパシヤ」代任ニ撰バレタ
リ、「ノルスコツト」氏ハウオルチ」ニ答テ云ク英政府ハ今般魯
土ノ戦ニ加ハルノ目途ナシト
伯林三十一日北独逸「ツアイチュング」新聞ニ云ク墺政府ハ只
四「ブウヒジヨン」ヲ戦争支度スルニ決セリ然レトモ是レ迄

守リシ中立ヲ破ルノ念ハ全クナシト
維納一日昨日諸卿ノ會議ニ於テ墺政府ハ兵ヲ戦争支度
スルニアラスシテ「ゴーント、アンドラシ」ノ勧メニヨリ
恵テ用意ノアリシ南境ヘ只四「ブウヒジヨン」ヲ増スニ決
シ丈レダ為メ臨時ノ経費二千五百万「フロリン」ヲ費ス
ニ決セリポリチシコルレスポンデンツニ「ブカレスト」ヨ
リノ電報ヲ記シテ云ク土國軍艦「キリー」ノ河口ヲ往テ「ダ
ニューブ」ヘ乗入ントセシニヨリ魯兵ハ「ブライロフ」ヘ新規
砲壘ヲ建築中ナリ
「ブカレスト」三十一日魯兵ハ「ヲルテニツア」ノ辺ヲ巡邏ス
ル土ノ汽船三艘ヘ砲撃セシガ一艘ハ沈没シテ他ノ二艘
ハ逃ケ去レリ、英國大佐「ウユルスレー」ヨリ英政府ヘノ届
ニ土兵ノ言爾ラセレ魯兵暴行ノ儀ハ断然虚説ナリト報

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 405-1

知セリ、中将「グルデネル」ノ部下ノ「ニコボル」城ヲ「攻撃シテ之ヲ奪取リシ時我兵ノ死傷ハ即死士官三人卒二百七十三人傷士官二十二人卒九百九人又拂傷十一人卒二十二人行衛知レザル卒九十人ナリ

竜動三十一日下院議席ニ於テ「ウォルフ」氏云ク来ル金曜日政府ヘ死テ見込ヲ差出スベシ此見込ハ下院ニ於テハ是迄英政府ノ中立ヲ守リシヿヲ十分ニ可ナリトシ又余岐ナキモノトレ即今東邦事件ノ有様ヲ見テハ「ダニューブ」河通船ノ規則並ニ「ボスフォリユス」「ダルダネル」等通航ノ権理ヲ除ク外面ニ基キ固守保護センコトノ趣意ナリ

仝三日

「ブカレスト」一日去ル三十日第四第九第十一「コルプス」中ヨリ三万三千人ヲ抜キ「パロンクルデネル」、「シャホフスキー」並ニ「タクブラット」新聞ニ「ブカレスト」ヨリノ電報ヲ記シテ曰ク「ロマ」河ニ於テ魯兵ハ大ニ勝利ヲ得シトノ風説ハ今ニ慥ナル報ヲ得ス「ルスチュク」並ニ其近地ハ全ク穏カナリ「プレヴナ」新聞ニ「チフリス」ヨリノ電報ヲ記シテ云ク去ル土曜日「ダゲスタン」並ニ「セウェルスキー」聯隊ハ「ウサガンケコ」並ニ「カルス」ノ近辺ニアル土兵ヲ斥候スルニ数時間ノ戦ニテ魯兵ハ士官五人卒六十五人ヲ失ヘリ「プレヴナ」ヨリ三十一日君士坦丁府二日「オスマンパシャ」ノ附ノ電報ニ今朝魯兵ハ東ノ方ヨリ我営ヲ襲ヘシガ多ク

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 405-1

兵士ヲ損シテ退ケリ

「ブカレスト」一日魯ノ援兵陸続トシテ来ルニヨリヤ「ソシ」ノ鉄道線ニ於テハ旅人ヲ運送スルヲ停止セリ

雒納一日ポリテンコルレスポンデンツ「ベルグラード」ヨリノ報ニ記シテ曰ク希臘國ノ領事「ドキサス」ハカラグエワツ地名ヨリ當府ヘ帰来セリ希政府ヨリ全民ヘ托セル連合セントノ目論見ハ失望セリ

「サルスブルグ」一日、國帝ハ来ル七日當地ヘ着シ翌日「イス」ヘ向ケ発程サルベシ仝所ニ於テ墺帝ト面會アルベシ」

仝四日

雒納二日「インテルナショナルアゲンス」ノ報ニ「ブカレスト」ヨリ昨日ノ日附ヲ以テポリテンコルレスポンデンツヲ報知シテ曰ク「プレフナ」ノ戦ハ七月廿九日朝九時ニ始リ

休戦セスシテ三十一日ノ夜二時マテ連戦セリ土兵ハ「ニクシ」ヲ占領シ「ソフヒヤ」並ニ「ウサゲンヨリ援兵ヲ得九八万ヲ以テ高地ノ強キ要害ニ拠レリ則チ「ウサド」河ヲ見下ス山脈ナリ魯兵ハ「クルデネル」ノ師ユルコルプス「シヤコフスキー」ノ「デウサジョン」並ニ「スコベレフ」ノ率ユル哈薩克「ブリガード」ト「ヨシ」ハ劇シク接戦シ三ケ所ヨリ土兵ヲ逐ニ出タセシガ敵兵山頂ヨリ発砲スルヲ以テ仝所ヲ支ユルヲ得サリシ魯ノ中軍ノ一大隊ハ暫時ノ間「プレフナ」ヲ采取リシガ四方ヨリ砲撃サレ損傷甚タシク退ケリ此時両方ノ死傷最モ多シ「プレス」新聞ニ「セテニヤ」ヨリノ電報ヲ記載シテ云ク「モンテネグロ」軍ハ「ニクシチ」府ノ門ヲナル「チヤウサ」ノ砲撃臺ヲ乗取レリ婦人小児等ハ悉ク「ニクシ」

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 405-1

「ナ」ノ塁場ヘ退ケ迯メリ仝町ニ於ケル大砲十二門ヲ備ヘ市街並ニ砲塁トモ厳重ニ柵ヲ設ケテ防ケリ

「ベルグラード」三日「ブリンスミラン」ハ令ヲ下シ國境ヲ守ル為メ三十人ノ郷兵ヲ募リ又武器ヲ全備スル為メニ緊要ノ品々ヲ購求スルコヲ許可セリ

竜動三日伯林ヨリノ報ニ「ミザットパシヤ」ハ免罪ヲ得テ土京ヘ帰府セシヿヲ出願セリ

「ブレス」新聞ニ云ク七月二十七日マテニ歐洲戦場ニ於テ魯兵ノ死傷八千八百六十九人ナリト

「ブカレスト」三日魯兵ハ「ヲルテニッツア」ノ迩辺ニ於テ搆ヲ架シ了レリト

仝六日

君士坦丁府五日ノ報ニ「ケーゲ」(埃及君主)ハ猶六千ノ援兵ヲ土耳格ニ送ルベキヲ約シ又小亜細亜ノ兵力ヲ増サン為メ歩兵二十五大隊ヲ「バツム」ヘ送レリ「メクメットアリパシヤ」ノ兵ハ「ウルナ」ニ於テ魯ノ二軍ト戦ヲ始メリトノ報アレトモ未タ細報ナシ

「ガラツ」五日ノ報ニ「ローマニヤ」敷ハ二手ニ分レ一万ノ兵ハ「ローマニヤ」國内ニ在リテ「ダニューブ」河岸ヲ守リ壱万ノ兵ハ已ニ「ブレフナ」ニ向テ発シ二万五千ノ兵ハ「ココボル」ヘ繰出スヿニ決セリ仝六日ノ報ニ「ゼネラール」マス」ハ職ヲ免セラレタリ

君士坦丁府四日ノ報ニ小亜細亜ニ於テハ魯敷進撃シテ「ムクタルパシヤ」ノ兵ト戦ヲ始メリ「ダニューブ」方面ヨリハ新報ナシ「レウフパシヤ」ハ当府ヘ帰来セリ

雑納四日「ラスクラウト」ヨリノ電報ヲ「タグブラット」新聞ニ

記シテ云ヒ「オスマンパシヤ」ノ援兵トメ「アルバン」ノ騎兵四千「プレフナ」ヘ着セリ、仝新聞ニ「ブカレスト」ヨリノ電報ヲ記スルニ「ビテー」「ラホウ」ノ間ニ劇シキ砲戦起レリ大小「ウラヒヤ」ノ鉄道ハ兵隊運送ノ為メ旅人並ニ商品等ノ運送ヲ絶テリ

仝七日

「チャウレマハル」三日ノ報ニ「ニコラヰ」親王ヨリノ公報ニ去三十日「プレフナ」戦争ノ詳報ハ未タ得サレ共凡ソ我兵ノ死傷ハ五千余ニ及ヒ其中「シュイ」隊ノ隊長戦死セ「コズロ」ノ隊長「ステパノフ」ハ重傷少将「ボセリヤノフ」隊ノ隊長「サランケコフ」ハ薄手ヲ負セタリ現下我兵ハ戦前ノ地位ヲ保守セリ我右翼兵ハ敵ノ二重ノ囲メヲ破リ三十日ニハ「ヒスキザクラ」ニ在ル「スレイマンパシヤ」ノ兵ヲ打退ケ大砲二門ヲ奪ヒ翼三十一日ニハ「ヒスキザクラ」ノ辺「デュガンリ」ニ於テ「スレイマンパシヤ」ノ他ノ一部兵ニ迫リタレ共敵兵四方ヨリ来リ戦フヲ以テ我カ「ボルガリヤ」兵ハ「ヒスキザクラ」ヨリ「バルカン」峠ヘ退ケリ「シュム」ニ於テハ異事ナシ

「ブカレ」ニ「プレフナ」ノ「ブレフナ」ヘ攻戦ノ時ニ「ネラールクルデネル」ノ軍ハ「プレフナ」ヘ一旦兼入タレ共援兵ノ続カサリシニヨリ終ニ退ソカサルヲ得ス此退軍ノトキ大ニ兵ヲ損セリ「プレフナ」ノ我カ地位ハ其土地ノ不便ナルニヨリ我兵ハ大砲ヲ悉ク用ユ

ル散ハズシテ只三十六挺ヲ用ユルヲ得シノミ本営ハ現下「ブルガレニ」ニ在リ今我兵ハ数多ノ援兵ヲ得タルヲ以テ再タヒ「ブレフナ」ヲ攻撃スベシ」

「キュルクダラ」ハ即チ現下亜細亜方面ニアル魯兵ノ本営ナリ

其地ノ住民児女五百人ヲ暴殺セル「ー」ハ第八軍ナルガ「ロフケヤ」ハ固メリ「シストホ」下ノ新橋ハ昨日成就セリ我左翼ニハ戦ナシ

「キュルクダラ」六日ノ報ニ大佐「コマロフ」ハ「サリザリ」並ニ「ヨダシチル」ノ近辺ニテ二千ノ山賊ニ出會ヒ戦ヒシガ「ンスバリヤチンスキト」ノ率ユル組撃隊ニ大隊ノ援兵ヲ得テ散々ニ賊兵ヲ追撃セリ我兵即死二人傷四人ナリ賊ハ戦場ニ死骸三千ヲ遺セリ

雑納六日「ドイッセツァイケュング」新聞ニ「ブカレスト」ヨリノ電報ヲ記メ云ク「ヤスキザクラ」府ハ砲火ノ為メニ残ラズ焼滅セリ「ドブロッゼ」ノ魯兵ハ其中軍ト合セレ為メ頻リニ進ミ第十一軍ハ「ビルゴス」並ニ「ベラ」ニ陣セリ「ラスグラット」ニ於テ魯太子ノ帥ユル先鋒隊ノ戦ハ魯兵大ニ旗色ヨク土敷ハ大ニ兵ヲ損セリ」「チフリス」ヨリノ電報ヲ「プレス」新聞ニ記スルニ魯敷ハ小迫合ノ後「アルノ三ケ所ヲ乗取リ本営ヲ「キュルクダラ」ヘ移セリ仝新聞ニ君士坦丁府ヨリノ電報ヲ記シテ云ク「レデフ」「アブヴルケリム」「サフエッド」ヲ軍律ニ処セル為メナミクパレヤ其裁判ヲ始メリ

竜動六日「レイテルアゲンド」ノ報ニ英政府ハ「ポンプ」丸五百噸ヲ至急「マルタ」島ニ送ルベキ令ヲ下セリ君士坦丁府ヨリ「レイテルアゲンド」ノ報ニ土帝ハ諸官員ノ給金ヲ半減スベシトノ令ヲ下セリ魯ノ蒸気船「コンスタンケン」号ハ去

三日ノ夜「キリヤ」ニ向ヒ砲撃暫ク ニシテ去レリ

二八日

維納六日ノ報ニ云フ「ブカレスト」ヨリ「タゴラット」新聞ヘ
ノ報ニ曰ク「ヒルトホ」「マテン」「ツルチヤ」ノ辺ニ新タニ輩
場ヲ築キ始メタリ「キリ」ヨリノ報ニ黒海ニハ海軍ノ戦
アリタリト「ブレス」新聞ニ「ブカレスト」六日ノ電報ヲ記ス
ルニ曰ク帝ノ行在所ハ明日「ツアレウサヤ」ニ移サルベシ「
コライ」親王ハ「ボロン、クルデネル」ノ率ユル「ベラ」街道ニア
ル魯勢ノ右翼ニ出張セラレタリ「チルルヤ」ニ於テハ屢々
驟キアリ、「シュムラ」ヨリノ報ニ「ポプケイ」ノ遣ニ魯ノ騎兵三
立スカトロン」（但シ大砲二門
附属セルモノハ不意ニ「チユルケ」人ニ斃
レ終ニ「ポフケイ」ヲ乗取ラレタリ「プレス」新聞ニ「チラリ
ノ丸ゲコビジョン」ハ「アルメニ

「ヤ」ヘ攻入リ「アニ」「マガスベリ」並ニ「チゴルル」ヲ乗取レリ土ノ
右翼ハ「ガルユ」ヘ近ク引揚ケタリ、君士坦丁府ヨリノ報ヲ
記スルニ希臘國穏ヤカナラザルニヨリ土政府ハ「スレイ
マンパシヤ」ノ率ヒシ兵ノ一部ヲ「ファツサリヤ」並ニ「エピ
ル」ヘ送ルコトニ決セリ「ケルン」新聞ニ記スルニ「ムクタルパ
シヤ」ハ此後防戦ノミヲ主トシ部下ノ内二十五大隊ノ兵
ヲ欧洲方面ヘ不日送ルベシ「ボリケシコルレスポンデン
ツ」新聞ニ「ザラ」五日ノ報ヲ記スルニ昨日「デスボトウイチ」ノ
率ユル一揆兵ト土兵ト戦ヒデスポトウイチハ敗績シ三百
人ヲ帥ヒテ塁領ニ退入リ塁兵ヨリ悉ク武器ヲ取リ揚ゲ
ラレタリ

「ベルグラード」六日ノ電報ニ下院ハ評議ヲ終リ昨日ヨリ
閉院セリ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 405-1

竜動七日「スタンダルト」新聞ニ記スルニ昨日諸新聞ニ記
レタル英國ヨリ尚又三千ノ兵ヲ「マルタ」ヘ送ルトノコト八
全ク虚説ナリト「タイムス」ニ君士坦丁府ヨリノ電報ヲ記
シテ云ク「ガドリベト」ハコトンゲッケ」ニ向テ曰ク若シ魯
國ニテ「ボルガリヤ」ヲ自治州トシ基督民ヨリ鎮名長ヲ置
クノニテ足レリトスルトキハ土政府ニテハ和ヲ結ブノ
不同意ナカル可シ

廿九日

維納八日君士坦丁府ヨリノ報ヲ「ブレス」新聞ニ記スル
魯兵六萬ハ「ルスチュク」ト「ビルコズ」ノ間ニ集マルヲ以テ「ア
クメット」エユトブパシヤ」ハ四萬ノ兵ト十五「バッテレイ」ノ大
砲ヲ率ヒテ「スグラウト」ヲ固メタル「スレイマンパシヤハバル
カン」ヲ越テ土軍ヲ「バルカン」ノ南ニ集ムベシトノ命ヲ受
ケリ「ブレス」並ニ「ダグブラット」新聞ニ魯軍ハ「シプカ」並ニ「プ
ルツノ」林中ヲ嚴シク固メリトベルグラードヨリノ報
ニ歩兵十二大隊大砲五大隊ハ「ネゴチン」並ニ「ザイソアル」
ヘ出張スベシトノ命ヲ受ケリ又云クセルフヒヤ」ニテハ軍
備ヲ大ニ急キセ「メンドリヤ」「ザゴリラ」並ニ「クラグエワ」ノ
兵ハ未ル十五日國境ヘ出張スベシトノ命ヲ得タリ君
士坦丁府ヨリノ報ニ昨日「キュステンゲ」ニ戦ヒアレド土艦
ヨリハ未タ兵隊ヲ上陸セシメズ「アテインヨリノ報ニギ
リシヤ」政府ハ不日四萬ノ兵ヲ戦争支度スヘシ
君士坦丁府六日ノ報ニ土勢「ガザンリク」並ニ「エニザクラ」
ヲ取戻セシトノ説ハ追々陸ニナレリシ「シプカ」峠ハ未タ魯
勢ノ手ニアリ亜細亜方面ニテハ大戦アリト而已ノ報ニ
テ未タ何ノ詳報ナシ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 405-1

竜動七日ノ報ニ「キンニル」ハ下
魯英独三國ニテ土耳其ヲ分領
ハ其確報ヲ得タルヿアルヤト
下院ニ於テ此向ニ答フベキ程
答ニテハ不満足ナルニヨリ円
ヲ起スベシ
「オシル」八日ノ報ニ曰ク今午後
ヘ着アリテ共ニ「立」リサベトホ
詰アリ不日墺ノ太子モ着アル
「ブルガレ」六日ノ報ニ云ク我
「マリウポル」ス駢隊モ當地ニ着
キレ者ノ療養ハ甚タ行届ケリ
傷ハリナレ兵隊ノ気勢熾ン
ヲ頻リニ待テリ

公十日

君士坦丁府四日ノ報ニ「レワシ
ハズ」クムカレ」ヲ退キ駆キ立タ
ク土耳格ノ領内ニ引移サルベ
「レイヤルド」氏ニ向テ云クガ「リ
テ固ムヘキ為メ我政府ヨリ兵
雖納八日タ「クブラッド」新聞ニ土
魯斯ハ退スバルカン」ノ南ヲ引
退クトホ「リケンコルレスポシ
ドヨリノ報ヲ載セテ云クポ「
奉リセル「ヒヤ」トポ「スニヤ」ヲ合
出頭セリ魯帝之ニ對フルニ猶

此報信スベカラズ

一先勘考ノ上返答スベシト

「イレル」九日ノ報ニ日帝ハ墺帝並ニ太子ト別レ今朝九日當府ヲ出立セリ墺帝ハ「エベンゼ」マテ見送リタリ竟動九日ノ報ニ「ロルドビー」コンスフェヒリ」ドハ不日下院ニ於テ東邦疑問ニ付肝要ナル英政府ノ処置ヲ讀ミ上クベシ

仝十一日

「アレキサンドロポル」九日參謀長ヨリノ公報ニ去ル五日土敦ハ「チンギルスキー」ヨリ「カラバンサラ」マデノ間ニテ「テルグカリフ」ノ兵ニ向テ攻メ掛レリ敵ノ歩兵六大隊「バルブヴッタ」並ニ「クルド」人等ヲ率ヒテ「ヒヲ固メタル我兵ヲ逐却ケ「アリコチャク」村ヲ乗取リ「バル」「村ヲ襲ハントセシ我「ドラグン」隊之ヲ防キテ逐ニ

追却ケリ此戦我兵ノ損亡ハ士官二人卒十三人傷ウキ卒四人戦死セリ敵ハ戦場ニ死骸十ヲ遺レテ去レリ「アニュヤク」ニ敵兵集ルヨシ「ゼネラール」「テルグカリフ」ハ「イグゲル」ニアル兵ヲ分ラ之ヲ攻メ大佐「コマロフ」ハ二千ノ土勢ヲ襲フトキ大佐「バリヤチンスキー」ハ狙撃ヲ率ヒ夜中四十「ウヨルスト」ヲ走セテ「コマロフ」ト合ヲ共ニ撃テ敵ヲ退ケリ此戦ニ敵ハ三千余人ヲ失ヒ我兵ノ死傷ハ甚タ少シデル「ウサシパシヤ」ハ歩兵四大隊ヲ「チヒデル」ヨリ船ニ載セテ北ノ方ヘ送レリトノ報アリ

雑纂九日ボリチンコルレスポンデンツ新聞ニ「ブカレス」ヨリノ記レテ曰ク「ペルシヤヨリノ報ニアフカンノ王（ダール）「シルアリ」ハ民ノ求ニヨリ英國ニ對レテ宗旨ノ戦ヲ開ク」ノ布告セリ「フレムデンブラット」新聞ニ「ブカレスト」ヨリ

此等ノ報信スベカラズ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 405-1

ロフチヤ」ハ「ボし字」ノ南我七里半ノ所ニアリ

ノ報ヲ記スルニ魯軍ハ「オルテ
頻リニ「ツルツカ」ニ渡ルヲ以
甚タ危シ
君士坦丁府八日ノ報ニ昨日魯
ヲ以テ「ロフチヤ」ニ襲来リ九時
ケソ「シュム」ヲ七日「アクメット」リ
ニ於テ戦アリテ魯軍敗北セリ
ラレシヲ攻メタレ共土軍ノ為
マンパシヤ」ヨリ七日ノ報ニ「ロ
死傷三百人ヲ遺レテ退ケリ我
君士坦丁府九日「オスマンパシ
ニ魯軍歩兵八大隊騎兵八大隊
ヨリ「ロフチヤ」攻メ「ボと」氏同
分隊兵撃ヲ之ヲ却ケ魯軍ハ戦
又ベリ
竜動十日「ロルドビコンスフヒルド」ハ下院ニ於テ述ルニ駐
土英大使「レイヤルド」ハ土政府ハ自
國ノ兵ヲ送リ以テ「ガリポリ」半島ヲ固メ若シ英ガ我ト合
同シテ防戦スベシトノ約ナクバ英兵ヲ右半島ニ置クヲ
許サヾルベシト「ボルノ」氏下院ニ於テ述テ曰ク「ローマニ
ヤ」並ニ「セルフヒヤ」共ニ合メ戦ヲ起スカ又ハ魯軍「セルフヒヤ」
領内ヲ過ルヲアルトキノ為メ換國ニテ軍支度ヲ為セシ
コニ付テ英墺二國間何ニモ談合セシヿナシ魯帝ト土帝
ト和睦ノ談始マレリトノ事ニ付テモイマダ確報アリシ
ヿナシ
「ケルン」十日「ケルン」新聞ニ君士坦丁府ヨリノ報ヲ記スル

ニ墺政府ハ土政府ニ公然告ケ曰ク魯國ハセルヒヤ」国ノ為メニ墺國ヘ何ニモ談セシフヒヤ」ヲ視ルコト以前ニ替ルコトナレト又墺政府ニテハ「セルビヤ」ハ六千騎ヲ率ヒテ「セルビヤ」ニ入リ比特堡「ドイツ」新聞ニ維納九日ノ報ヲ記スルニ「オスマン」ヲ襲ヒタル兵ニ魯軍ノ為メニ大敗セリ土耳格出テテハ「ラスグラツト」ニハ現下歩兵四十八大隊常備騎兵六十大隊永規兵二十大隊大砲十五「バッテレー」アリト

維納十日「タグブラット」新聞ニ云ク魯軍ハ始メハ「ロフチヤ」ヲ攻メ土敷ヲレケロフチヤ」ノ方意ヲ注セシメ七萬ノ兵ヲ以テ「プレウナ」ヲ圍メリ「ジュルナルデサンペテルスブル」新聞ニ記シテ云ク「ボル」攻戦ノ時魯兵ノ死傷ハ千二百九十七人ニシテ其中士官二十五人ヲリ猶之ヲ細カニ記セハ戦死士官三人兵卒二百七十三人、手負士官二十二人兵卒九百九人、挫傷士官十一人卒二十一人、行方知レズ兵卒九十壱人ナリ

仝十二日

「ブカレスト」十一日ノ報ニ「チルナ」ノ周囲ニアル高地ノ固メハ追々厳重ニナレリ「クメットアリパシヤ」ノ兵ト魯ノ中軍トハ現下八時間行程ノ距離ニアリ、「ローマニヤ」國ハ此節出軍セシ代リトメ「ドブルヂヤ」ヲ得ンヨヲ要望スト

維納十一日ノ報ニ「トブルヂヤ」ノ魯兵ハ追々進ミ出レ方今ハ「ソワゲイ、ヨ」ノ間ニアリ土耳格出テハノ説ニ「クメットアリパシヤ」ノ兵ハ「ヲスマンバザル」ニ在リ其数三萬五千ニシテ不日尚壱万ノ援兵ヲ得ヘシト「プリンスハッサ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 405-1

」ハ「ユゲブト」ノ兵ヲ師ヒテ「キュステンゲ」ヘ進メリ
竜動十日「スタンダルト」新聞
ニ土ノ本営ヨリノ報ヲ記シ
テ曰ク「スレイマンパシヤ」ハ
「ユコボ
ニテ魯ノ手ニ入リタル甲
「ア」ニアリ不日「アレキセ
鉄艦二艘ノ内ヶ艘ハ現下ジ
ム」ニ集メリ「ユコボ
「イ」親王自ラ此艦ヲ指揮スベ
シ他ノ一艘ハ不日「ガリンス
ヤコフスキー」ノ指揮ヲ
セット」氏ハ英國下院ニ於テ述
ル「公十七日ノ報ニハ「ウ
土ノ戦ニ混入スル等ノコア
ルベカラザルヤトノルスコッ
「ト」氏之ニ答テ曰ク下院ニ於テ向ヲ白ク魯兵
ニ於テアルマジトモンク」氏
モシ君士坦丁府ニ乗入リタ
テレスト」ヲ失ヒ又是ヨリシ
ル魯英間ニ不和ヲ生スル
ゲスメ右様ノ所置ハ英政府
ニ於テハ英ノ東方ノ「イ」シ

至ルアルベカラザルヤトノ「ノ如キ問ニハ現下直ケニ答フル能ハズ
君士坦丁府十日ノ報ニ「イスコット」氏之ニ答テ曰ク此
月六日土敷ハ「マウス」ト名ケル地ヲ再タビ乗取リ國境
越ヘテ遠ク敵地ニ進メリ

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 405-1

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 405-1

国立国会図書館　伊藤博文関係文書（その1）書類の部 405-1